

資料 1

現在の復旧状況について

- ・平成26年10月の台風18号災害復旧
- ・由比～興津 斜面崩壊箇所の対策
- ・防災機能の強化を図る対応策の方針のイメージ図

A 測線

推定地質断面図 S=1:250 (A1)

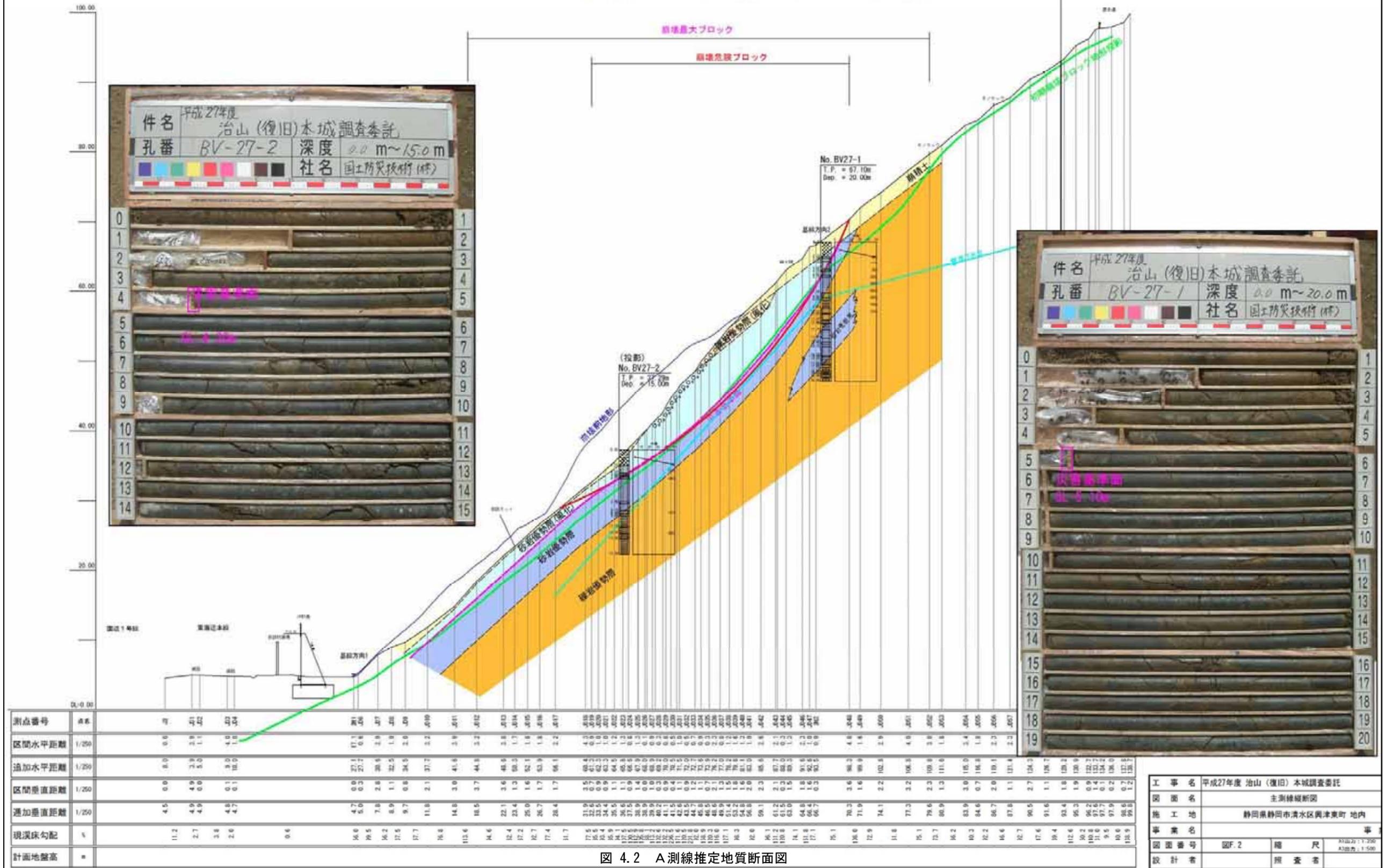


図 4.2 A 測線推定地質断面図

工事名	平成27年度 治山(復旧)本城調査委託		
図面名	主測線断面図		
施工地	静岡県静岡市清水区興津東町 地内		
事業名	事業		
図面番号	図F.2	縮尺	A1000:1-250 A3000:1-500
設計者	照査者		
事業所名	静岡県中部農林事務所	年月日	
変更年月日	年月日	変更設計者	

B 測線 (既崩壊断面)

(1) 素因 (何故、この場所で発生するか?)

- 周辺の地質構造は、北東-南西方向の断層が発達する地域であり、それに斜交する形で北北西-南南東方向に向斜軸及び背斜軸が発達する。業務対象箇所は、薩摩向斜と呼ばれる向斜軸付近に位置しており、地質構造的に弱線部となっている可能性が考えられる。
- 地質構造は、対象斜面に対して流れ盤を呈し、崩壊が発生しやすい構造を有している。
- 比較的安定している砂岩層の上に、脆弱な風化層が流れ盤状に分布している。
- 崩壊箇所は、空中写真で判読される変形地形の末端付近に位置しており、斜面全体が緩んでいた可能性がある。
- 斜面の平面形状は、大局的には集水地形を呈しており地表水が集中し易く、特に当初崩壊ブロック直上部は明瞭な凹地形を呈しており、地表水を集中的に集め、崩壊地内に供給し易くなっていた。

(2) 誘因 (何をきっかけに発生したか?)

- 平成 26 年台風 18 号通過時: 10~15 年確率の集中豪雨時の雨水の浸透による浸透水圧の作用及び間隙水圧の上昇により、斜面の緩みが進行し (せん断応力が低下し)、崩壊が発生 (初期崩壊ブロック) したと考えられる。

(3) 今後想定される崩壊

- 初期崩壊ブロックの発生により斜面全体が不安定化し、基盤上に緩んだ風化岩が残存している箇所では崩壊の危険性が増加しており、今後の集中豪雨時には今回同様の崩壊の発生が懸念される (崩壊危険ブロック)。
- 将来的に大規模な地震が発生した場合、地震動が斜面の不安定化を増進させると想定される。
- 当該所で崩壊が発生し、上部斜面へ変形が波及した場合、尾根部付近までの大規模な変形に拡大する可能性がある。

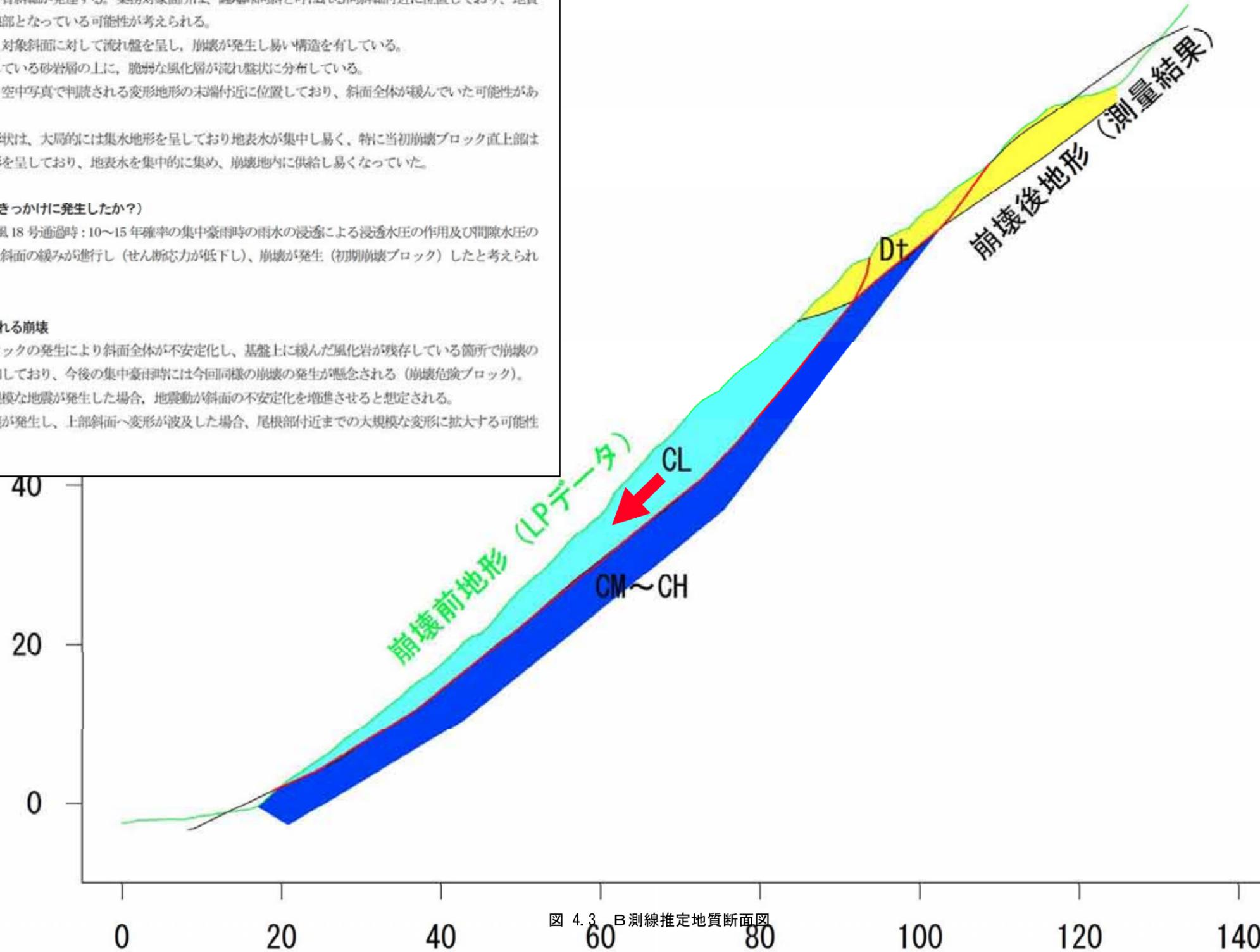


図 4.3 B 測線推定地質断面図

防災機能の強化を図る対応策の方針のイメージ図

防災機能の強化を図る対応策の方針について、キーワードを下記(1)、(2)の2点としてまとめていく。

(1)「全て斜面改良して、土砂崩壊を防止する」



(2)「既存施設の補強(コストにより区分する)」

